

WHITE RIBBON Run 2019

ホワイトリボンラン 2019 報告書



SPORT
FOR
TOMORROW

協賛



A brand of FCA

Lactoferrin Lab.

INSO



THREE

資生堂ジャパン株式会社
近畿支社

主催



公益財団法人ジョイセフ

後援

大阪府、大阪市、国連人口基金 東京事務所、UN Women 日本事務所、一般社団法人日本家族計画協会、公益社団法人日本看護協会、公益社団法人日本産科婦人科学会、公益社団法人日本産婦人科医会、公益社団法人日本助産師会、公益社団法人日本母性衛生学会、公益社団法人母子保健推進会議、株式会社エフエム大阪

協力

吉本興業株式会社、一般社団法人日本 SDGs 協会、トートバッグ専門ブランド ROOTOTE、他

助成

国際家族計画連盟 (IPPF)、アイスタイル芸術スポーツ振興財団



Photo Gallery
TOKYO
特別会場 - 東京



Photo Gallery
OSAKA
メイン会場 - 大阪





Photo Office Wacca - Kotuki Orisaba



Photo Gallery

THROUGHOUT JAPAN

日本各地の拠点会場



Event Outline

大会概要

大会名称 WHITE RIBBON RUN 2019

主催 公益財団法人ジョイセフ

開催日 2019年3月2日(土)、3日(日)

特別協賛  株式会社ドーム (アンダーアーマー)

協賛 サラヤ株式会社、FCA ジャパン株式会社
INSOU ホールディングス株式会社
花王株式会社花王ハートポケット倶楽部
株式会社リライフ日興
資生堂ジャパン株式会社近畿支社
株式会社 ACRO (THREE)

助成 国際家族計画連盟 (IPPF)
アイスタイル芸術スポーツ振興財団

後援 大阪府、大阪市、国連人口基金東京事務所
UN Women 日本事務所
一般社団法人日本家族計画協会
公益社団法人日本看護協会
公益社団法人日本産科婦人科学会
公益社団法人日本産婦人科医会
公益社団法人日本助産師会
公益社団法人日本母性衛生学会
公益社団法人母子保健推進会議
株式会社エフエム大阪

協力 吉本興業株式会社
一般社団法人日本SDGs協会
トートバッグ専門ブランド ROOTOTE
ジョイセフフレンズ関西支部

ホワイトリボンとは

2分に1人。
妊娠・出産・中絶が原因で女性が命を落としています。

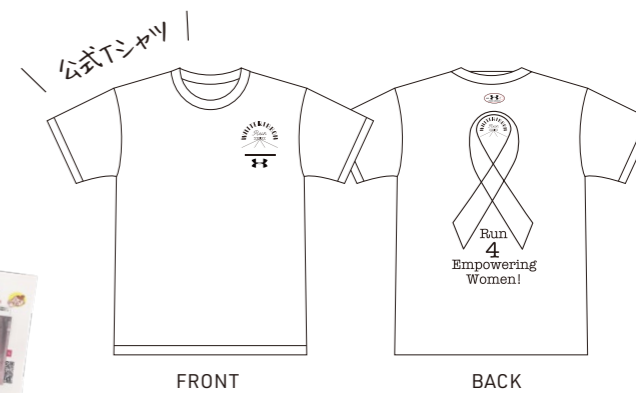
ホワイトリボンは、世界中の妊産婦の命と健康を守るシンボル。世界150カ国以上から団体や個人が、ホワイトリボンの名のもとに集い、世界中の女性が望んだ時に安全に妊娠・出産を迎え、命が守られる世界を目指しています。



©Miki Tokairin

ホワイトリボンランは、ホワイトリボン認知普及ため、「走ろう。自分のために。誰かのために。」をスローガンに3月8日の国際女性デーに先駆け、日本全国、世界中に参加のアクションを促すチャリティファンラン大会です。同じ大会公式Tシャツを着て走ればどこでも誰でも参加が可能であり、バーチャル(オンライン上で写真や動画を投稿)でも世界中のランナーが、ホワイトリボンの名のもとにつながれます。そして、エントリー費の半額が途上国の女性支援のための寄付金となります。

大会公式Tシャツ&お土産



FRONT

BACK

CONTRIBUTORS 賛同著名人によるチャリティアクション

吉本新喜劇の座長
酒井藍さん、山田花子さん、
宇都宮まきさん達が登壇。

YAY!



モデルの河内セリアさんと
立野リカさんにもコントに
参加していただきました。



山本晃子さんによる
ソマティック
エクササイズで
ウォーミングアップ

フィットネス
インストラクター
伊賀真奈美さんによる
エアロビクスでラン前の
ウォーミングアップ



一緒に走っていただいた
アクティビストの皆さん。
左から、美馬寛子さん、
立野リカさん、敦子さん、
河内セリアさん、長谷川理恵さん。
長谷川理恵さんは、東京会場に続き、
2日連続参加されました。



Run 4 All Women や
Harlem Run を主宰する、
Alison Mariella Désirさんが
来日し、登壇してくれました。



産婦人科医で
ヨーギーの高尾美穂先生
によるアフターヨガ。
溢れる笑顔とトークで
ラン後の体も心も
癒していただきました。

大島花子さんと
笹子重治さんが、
岡山でライブを行い、
被災地を元気づけて
くれました。



ダイヤモンド ☆ユカイさんは、
昨年の熊本に引き続き、
2019年は広島で走ってくれました。
ラン後は、トーク&ライブで
3曲熱唱の場面も。



ジョイセフアンバサダー富永愛さんと、
モデルでヴィーガン
ペイストリーアーティストの
長谷川理恵さんによる、
国際女性デースペシャルトークショー



(大) …大阪会場ゲスト (東) …東京有明会場ゲスト (広) …広島拠点ゲスト (岡) …岡山拠点ゲスト



富永 愛 (東)
ジョイセフアンバサダー



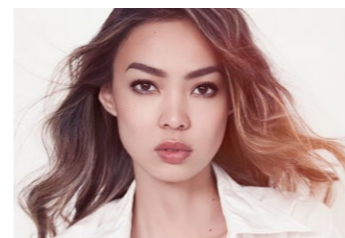
長谷川 理恵 (東)(大)
モデル・ヴィーガンペイストリーアーティスト



敦子 (大)
モデル



立野 リカ (大)
モデル



美馬 寛子 (大)
ミス・ユニバース・ジャパンナショナルディレクター



ダイヤモンド☆ユカイ (広)
歌手・俳優



大島 花子 (岡)
歌手



高尾 美穂 (東)
産婦人科医



河内 セリア (大)
モデル



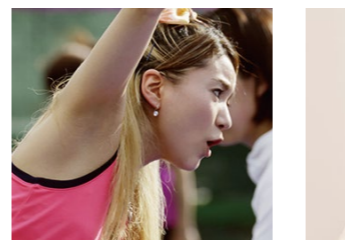
酒井 藍 (大)
吉本新喜劇 座長



山田 花子 (大)
吉本新喜劇



宇都宮 まき (大)
吉本新喜劇



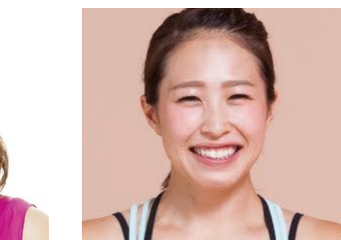
伊賀 真奈美 (東)
フィットネスインストラクター



浅利 そのみ (東)
フリーアナウンサー



山本 晃子 (大)
ソマティック
エクササイズインストラクター



大塚 由美 (大)
ラジオ DJ



Asuka (大)
ヨガインストラクター

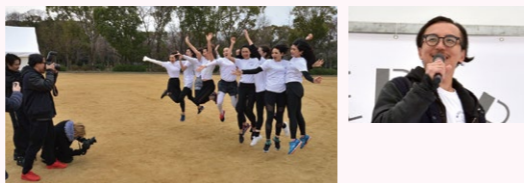
CONTRIBUTORS 賛同著名人によるチャリティアクション



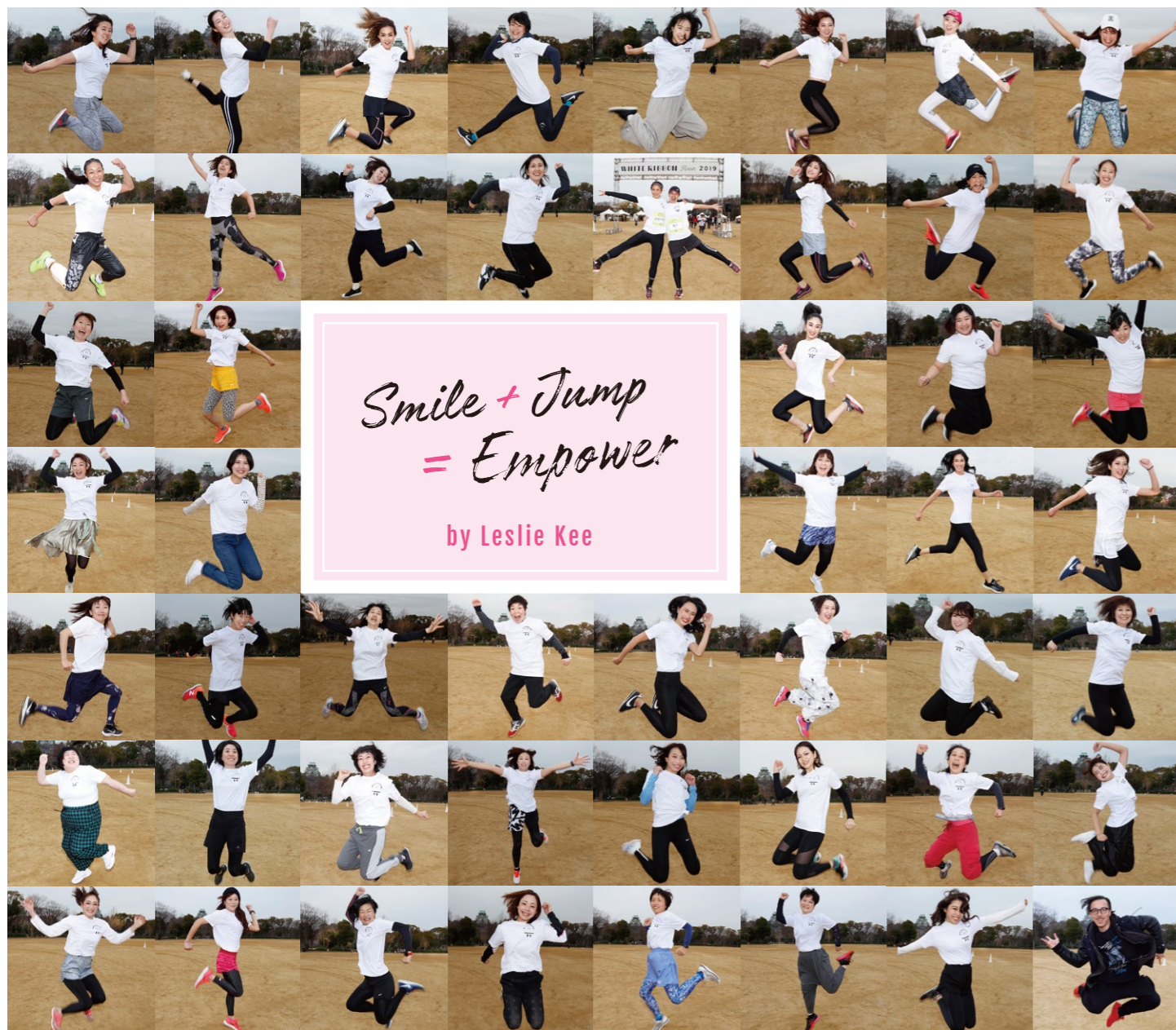
レスリー・キー (大)
写真家

世界的に有名なフォトグラファー、レスリー・キーさんが大阪women'sランに応援に駆けつけてくれました。

抽選で当選されたラン参加者50人の笑顔とジャンプを撮影していただきました。



東京有明会場、大阪women's会場のメイキングムービーおよび、次年度のためのプロモーションムービーを作っていました。



Smile + Jump
= Empower!

by Leslie Kee

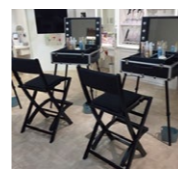
Booth ブース紹介

大阪women'sラン



FIAT

FIAT (フィアットチンクエチント) とミモザの花が大阪城公園に！
先着順でミモザの花がプレゼントされました。



資生堂ジャパン株式会社 近畿支社

ラン前にセルフメイクでさらに美しく。ラン後もメイクでキレイに。トレーラーハウス内にフリーメイクブースを設置！
資生堂のメイクアイテムとドレッサーをご用意しました。
ランナーの皆さんが、ラン前後にメイクを楽しみました。



ラクトフェリンラボ

赤ちゃんを守るために母乳に濃縮されている免疫成分ラクトフェリンを直接肌に与える最新スキンケアブランド「ラクトフェリンラボ」。世界初、高濃度ラクトフェリン配合で、シワ・たるみ・乾燥などのエイジングサインを集中ケア。
ブースで無料サンプルを配付しました。



ボディコンディショニング

QUALIA CONDITIONING とは、より良い状態でベストパフォーマンスを発揮する為に、現在の自分の状態(クオリア)を知り、目標を達成する過程を共に創造していく(コンディショニング)という意味。女性にも優しいフルオーダーメイドな身体調整が行われました。
(ブースの売り上げの一部をジョイセフに寄付)



フェイス & ボディペイント

ホワイトリボン限定！スペシャルなホワイトリボンを顔やボディなど好きな場所にペインティングして、皆さん走りました！
協力：JFA日本フェイスペイント協会 関西支部



大阪府

SDGsを知っていますか？2015年に国連で採択された17の国際目標のことです。ブースではSDGsのことを知ってもらうため、SDGs缶バッジを配布しました。 ※持続可能な開発目標 (SDGs)

ジョイセフフレンズチャリティブース (ブースの売り上げの一部をジョイセフに寄付)

- ① Karen : ヘアアクセサリの販売
- ② mori café : 焼き菓子と小物の販売
- ③ Advance : 化粧品と身体のバランスを整える製品の販売
- ④ JAY & SALLY (オリザ) : おにぎり＆スープの販売
- ⑤ 一般社団法人痴漢抑止活動センター : 痴漢防止バッジ販売



東京有明ラン



THREE

心・からだ・肌のすべてに、ホリスティックにアプローチするコスメブランドTHREE。特設ブースでは、天然の精油や植物成分が心地よいスキンケアや、新ベースメイクをはじめとするスポーツシーンでも快適にご使用いただけるメイクのタッチアップとサンプリングを行いました。



ROOTOTE

屋内外で使えてゴミ箱にもなるトートバッグ「ルー・ガービッジ」。ウェットスーツや水濡れしたスポーツ用品やウェアの持ち帰りにも便利なバッグを、ランナーにプレゼントしました。



アンダーアーマーフォトスペース

ここでプロップスをもって記念撮影！
写真家 東海林美紀・高木忠智によるランナーの写真撮影をスタジオで実施。



全国拠点ランの様子 西日本



佐賀県武雄市 Takeo

屋内でのラン。雨にも負けず周到な用意の下、開催。武雄市長も参加。地域の強力なネットワークで協賛企業多数。

協賛・寄付：医療法人原医院、株式会社三光、もしもしラーメン・ホワイト餃子餃子会館、China kitchen あんにん、株式会社梅野農場、医療法人慈慶会八木産婦人科、株式会社ネクストエッジ、有限会社大沢家具店、フルデンシャル生命福岡支社、辻製陶所、朝日I&R プロパティ株式会社、税理士法人武雄中央会計事務所、有限会社トゥワンケア、株式会社家ひきの中島建設、株式会社共栄、井上美窓株式会社、株式会社丸新、株式会社ヤマサキ商事えんびつ館、株式会社福岡設備工業、久島塗装、有限会社武雄衛生、月の首hanana、株式会社心美寿(トゥルーハート)



大分県大分市 Oita



熊本県熊本市 Kumamoto



大分県別府市 Beppu

雨天のため、ごみ拾いのみ開催。



鹿児島県鹿児島市 Kagoshima

国際協力、女性のエンパワーメント、ランニングなどのキーワードで集まった大学生や高校生のグループが自ら企画し開催。子どもから大人まで雨の中、和気あいあいと笑顔で完走。



宮崎県宮崎市 Miyazaki

広島県東広島市 Higashi-hiroshima

西日本豪雨の被災地、東広島での開催。東広島運動公園でゲストランナーのダイヤモンド☆ユカイさんとのランの後、ポスチャウォーキングのレッスンやユカイさんのトーク&ライブも開催。

協賛・寄付：株式会社 リライフ日興



岡山県倉敷市 Kurashiki

西日本豪雨の被災地、真備に元気を届けるための応援ラン。被災地で必死に生きるママたちに心を休めてほしいと岡山県助産師会によるリフレッシュママサロン、大島花子さん、笹子重治さんライブ&トーク、被災地のがれきり拾いも実施。



兵庫県姫路市 Himeji



大阪府大阪市 Osaka

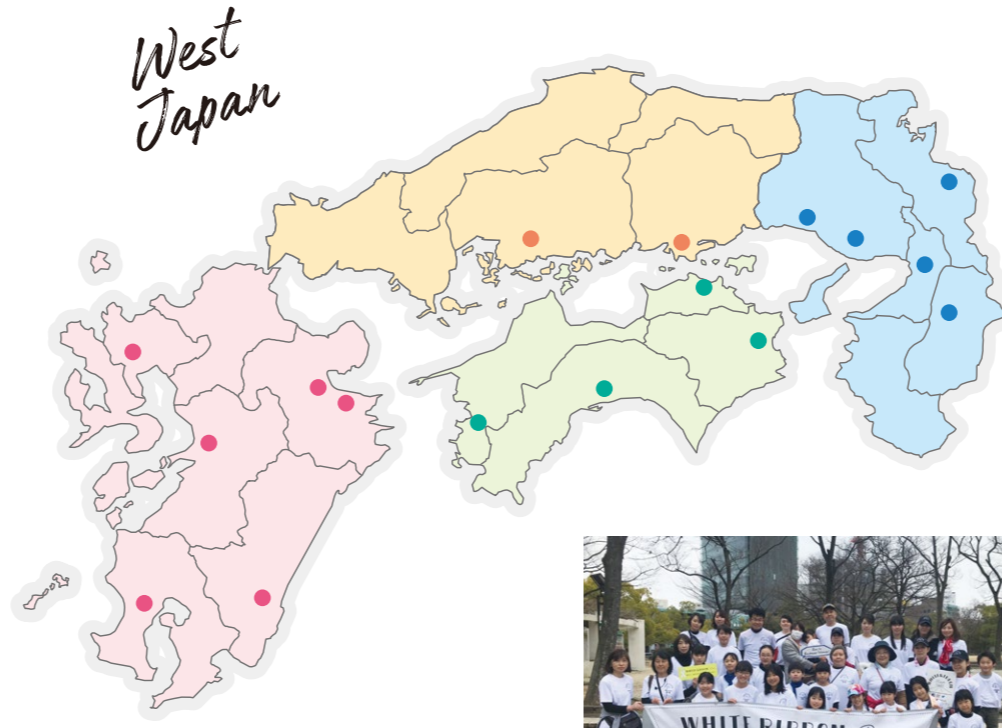
大阪府大阪市
アンダーアーマー拠点



兵庫県神戸市 Kobe



京都府京都市 Kyoto



大阪府大阪市 Osaka

大阪 women'sランと同じ場所で、メイン会場開催前の午前中に開催。男性ランナーが最多の拠点で、大会拠点最多の249名のランナーが参加。協賛企業の社員も参加。



香川県高松市 Takamatsu



高知県高知市 Kochi



徳島県徳島市 Tokushima

3回目の今年は、アスティとくしまをメイン会場にラン。徳島県のマスコット、すだちくんが応援に駆けつけました。ランの後は、徳島県立男女共同参画交流センターにて性暴力被害者支援センター「よりそいの樹 とくしま」主催でジョイセフのI LADY. ワークショップを実施。



奈良県明日香村 Asuka

全国拠点ランの様子 東日本



滋賀県大津市 Otsu

大津港前をスタート、179人が絶景の琵琶湖を走った。県副知事やパラアスリートも参加。コンサートやダンスなどステージイベントも。



三重県津市 Tsu



愛知県名古屋市 Nagoya

愛知県名古屋市アンダーアーマー拠点



愛知県名古屋市 Nagoya

小雨混じりの天候の中、名古屋城の天守にそびえる金のしゃちほこに見守られながらのラン。愛知県助産師会の助産師ブースでは、妊婦体験や「生まれる」体験も。

協賛：(株)ブレイクスルー、(株)ヨコエ、朝日生命保険相互会社名古屋統括支社名古屋中央営業所、(株)なごやか福来朗



静岡県浜松市 Hamamatsu



新潟県長岡市 Nagaoka



長野県長野市 Nagano



新潟県新潟市 Niigata

当日は天気に恵まれたデンカビッグスワンスタジアムをスタート。青空と地平線が続く清々しいランニング日和となった。



秋田県仙北市 Senboku

SDGs 未来都市に認定されている仙北市。誰一人取り残さないというメッセージとともに、風光明媚な田沢湖でラン。ドローンによる撮影も。



神奈川県鎌倉市 Kamakura

由比ヶ浜海浜公園から海岸沿いをラン。爽やかな潮風を感じながらバギーランやバギーウォークも行い、親子参加が多数。

協賛・寄付：一般社団法人日本母子健康運動協会、スガタ鎌倉



静岡県三島市 Mishima

ホワイトリボンラン開催回数最多の拠点。4回目の今年は、三島市が誇る水と緑の絶景ポイント中郷温水池を発着地とする三島ならではのコース。126名が参加。



神奈川県横浜市 Yokohama



北海道札幌市 Sapporo

北海道札幌市アンダーアーマー拠点



宮城県仙台市 Sendai



東京都渋谷区 Shibuya

東京都渋谷区アンダーアーマー原宿・渋谷



神奈川県川崎市 Kawasaki

多摩川河川敷コースを 100名を超えるランナーがファンラン。子どもたちのアートワークショップも。人と人のつながり、人と地域のつながりを感じられるイベントに。

協賛：イオンドクター、一般社団法人日本衛生管理協会、理容ヒビヤ



世界に広がるホワイトリボンラン



Brampton, Canada
Bramalea Secondary High School



London, UK
International Planned Parenthood Federation (IPPF)



Roma, Italy
Design Studio Mano Family & Friends



Kabul, Afghanistan
Dasht-e-Barchi Hospital, Ministry of Public Health



Dushanbe, Tajikistan
Maternity hospital, Dushanbe City Health Center No.1



Yangon, Myanmar
North District Public Health Dep. Yangon Region, Ministry of Health and Sports



Hue, Vietnam
Ivini Short Film Project Members



Nairobi, Kenya
Family Health Options Kenya



Washington D.C., USA
White Ribbon Alliance



Suhum, Ghana
Suhum Municipal Health Administration



Tain, Ghana
Tain District Health Directorate, Ghana Health Service



Dodoma, Tanzania
Uzazi na Malezi Bora Tanzania (UMATI)



North Island, New Zealand
Saraya Co.,Ltd.



Ndola, Zambia
Planned Parenthood Association of Zambia



Honiara, Solomon
Solomon Islands Planned Parenthood Association



Ulawa Island, Solomon
Ministry of Health and Medical Services & Makira-Ulawa Provincial health Promotion Div.

14カ国、200人以上の参加がありました。

イギリス、イタリア、ガーナ、ケニア、タンザニア、ザンビア、タジキスタン、アフガニスタン、ミャンマー、ベトナム、ソロモン諸島、ニュージーランド、アメリカ合衆国、カナダ

メディア掲載一覧

新聞・雑誌

- 2018.12.25 静岡新聞 来年3月、富士でチャリティーラン 途上国の妊婦支援
- 2018.12.28 朝日新聞(佐賀) ホワイトリボンラン 安全な出産願ひ武雄で3月開催
- 2019.1.9 大分合同新聞夕刊 3月、妊産婦支援ラン 参加者、20日まで募集
- 2019.1.12 毎日新聞(大分) 途上国の妊産婦支援を ホワイトリボンラン 3月2、3日参加者募集中
- 2019.1.16 ワイヤーママおおい版2月号 ホワイトリボンラン2019大分・別府大会
- 2019.2.2 山陽新聞(岡山) 走って復興後押し 来月2日真備で催し
- 2019.3.1 東京新聞(神奈川) 途上国の出産走って支援「ホワイトリボンラン」で寄付
- 2019.3.1 毎日新聞(滋賀) 「国際女性デー」を前に途上国の妊産婦支援 県内初ホワイトリボンラン
- 2019.3.3 岳南朝日新聞 出産などで亡くなる女性ゼロへ「ホワイトリボン」支援活動に協力 富士市内でチャリティーラン
- 2019.3.3 静岡新聞 途上国の妊産婦支援イベント 富士、三島でイベント 白いTシャツで快走
- 2019.3.3 富士ニュース 安全な出産願ひ走る 富士市で初ホワイトリボンラン
- 2019.3.5 読売新聞(大阪) 途上国妊産婦 走って支援 大阪城公園 ファンランに180人
- 2019.3.6 愛媛新聞 「ホワイトリボンラン」で世界の妊産婦支援 宇和島
- 2019.3.7 南信州新聞(飯田) 途上国妊婦走って支援
- 2019.3.7 中日新聞(名古屋) 「妊産婦を健やかに」ホワイトリボンラン 名城公園一帯
- 2019.3.8 読売新聞(滋賀) 180人ホワイトリボンラン 大津・琵琶湖岸 発展途上国の女性支援
- 2019.3.8 タウンニュース(多摩区版) ホワイトリボンラン 走って支援、登戸に75人「川崎」河川敷で初開催
- 2019.3.9 読売新聞(大分) 途上国女性を走って支援 妊婦や赤ちゃん命救うPR 催し
- 2019.3.10 秋田魁新報 ホワイトリボンラン 途上国の妊婦支援 湖畔走り活動PR
- 2019.3.12 南日本新聞 安全な出産願ひ 70人が雨中ラン



▲ 2019.3.5 読売新聞

テレビ・ラジオ

- 2019.12.22 RKK 熊本放送「クマモトウーマン」 広がるホワイトリボンランの輪
- 2018.12.22 FM 草津「モーニングロケット 785」 ホワイトリボンラン2019 滋賀初開催の告知
- 2019.1.28/2.2 FM OH! ホワイトリボンランを国際協力 NGO ジョイスエフが開催
- 2019.2.22 ラジオエフ ホワイトリボンラン富士告知
- 2019.3.1 NHK 鹿児島「ひるまえクルーズかごしま」 全ての女性が安心して出産できる社会のために、ホワイトリボンラン鹿児島、明日開催
- 2019.3.1 NHK 鹿児島「情報 WAVE かごしま」 全ての女性が安心して出産できる社会のために、ホワイトリボンラン鹿児島、明日開催
- 2019.3.2 NHK 東海 ホワイトリボンラン富士開催報告
- 2019.3.2 テレビ静岡 女性が安全に妊娠・出産できる活動を広める「ホワイトリボンラン」富士市で開催
- 2019.3.2 びわ湖放送「BBC ニュース」 国際女性デーに向けたホワイトリボンラン滋賀レポート
- 2019.3.2 びわ湖放送「キラリ滋賀」 3月8日は国際女性デー、ホワイトリボンラン滋賀レポート
- 2019.3.3 テレビ福岡 イベント概要・「妊産婦を守るホワイトリボンラン」
- 2019.3.4 武雄市ケーブルテレビ ホワイトリボンラン佐賀、武雄市で初開催
- 2019.3.7 KBS 京都「京スポ」 途上国の女性支援、ホワイトリボンラン京都開催



▲ 2019.3.1 NHK 鹿児島

ウェブサイト

- 2018.12.14 熊本日日新聞 「ホワイトリボンラン2019」参加者募集
- 2018.12.28 朝日新聞デジタル(佐賀) 武雄で3月にホワイトリボンラン
- 2019.1.3 Kiss PRESS チャリティファンラン大会「ホワイトリボンラン2019」神戸市中央区ほか
- 2019.1.4 タウンニュース ホワイトリボンラン 登戸河川敷で初開催 3月、走って国際女性支援
- 2019.1.6/1.8 UNDER ARMOUR SHOP BLOG ホワイトリボンラン開催のお知らせ UNDER ARMOUR BRAND HOUSE
- 2019.1.11 タウンニュース ホワイトリボンラン宮前平から「川崎」に3月、走って国際女性支援
- 2019.1.12 毎日新聞 ホワイトリボンラン 途上国の妊産婦支援を3月2、3日 参加者募集中/大阪
- 2019.1.12 産経ニュース WHITE RIBBON RUN 2019 女性に力を!
- 2019.1.14 広島ニュース 食ベタインジャー ホワイトリボンラン、東京・大阪・広島など26都道府県で開催
- 2019.1.16 走ろう! Com 3月8日の国際女性デーに先駆け、チャリティー大会「WHITERIBBON RUN 2019」開催
- 2019.1.18 シティリビング【大阪城公園】WHITE RIBBON RUN 2019 大阪 women's 会場ラン
- 2019.1.19 城東区 .corn 走ろう。自分のために。誰かのために。～国際女性デーは、女性のために走る～ @ ホワイトリボンラン2019
- 2019.1.19 大分合同新聞 3月、妊産婦支援ラン 参加者、20日まで募集
- 2019.2.1 CENTRAL JAPAN ホワイトリボンラン2019 ゲストランナーとして川内セリア出演!!
- 2019.3.1 東京新聞 途上国の出産、走って支援「ホワイトリボンラン」3月2日に多摩川河川敷で 8日は「国際女性デー」
- 2019.3.3 毎日新聞 ホワイトリボンラン 途上国の妊産婦支援 大津で県内初、市民ら180人参加「国際女性デー」を前に/滋賀
- 2019.3.6 愛媛新聞 online 宇和島「ホワイトリボンラン」で世界の妊産婦支援
- 2019.3.8 朝日新聞デジタル 女性の健康を発信「ホワイトリボンラン」 3千人が快走



▲ 2019.3.3 毎日新聞



▲ 2019.3.8 朝日新聞デジタル

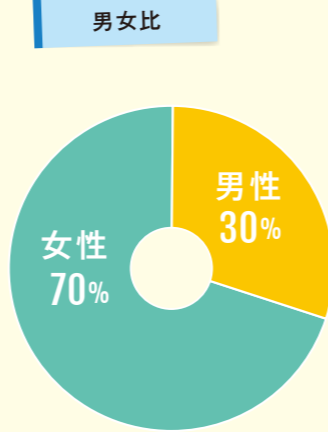
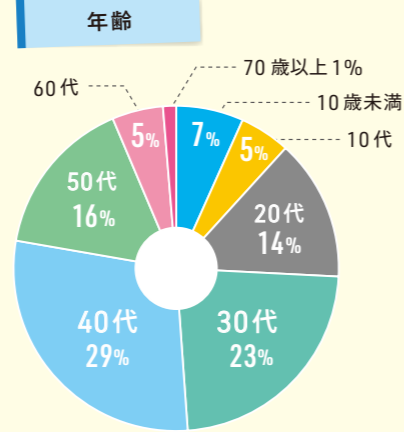
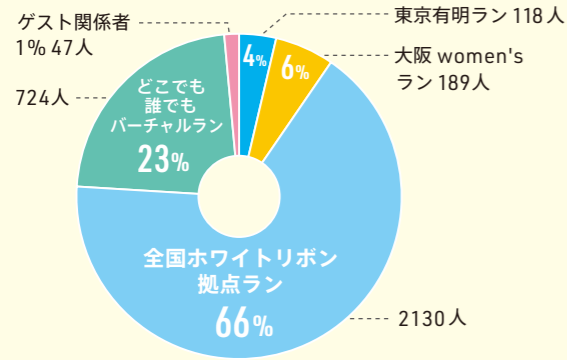
World Map

データで見る ホワイトリボンラン2019

White ribbon run 2019 infographics

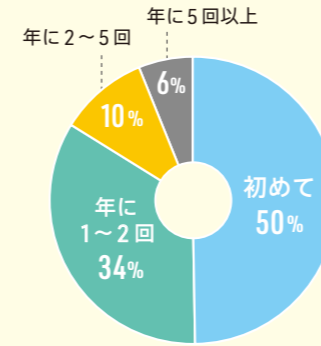
参加者内訳・傾向

参加者内訳 合計3,208人

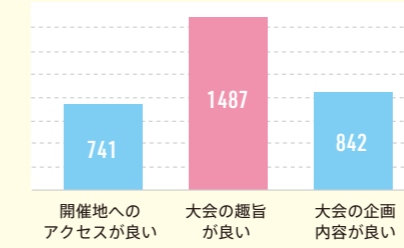


事前アンケート結果

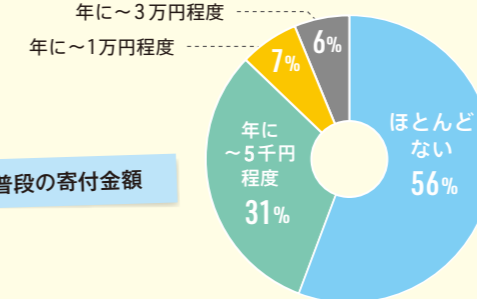
RUNイベント参加頻度



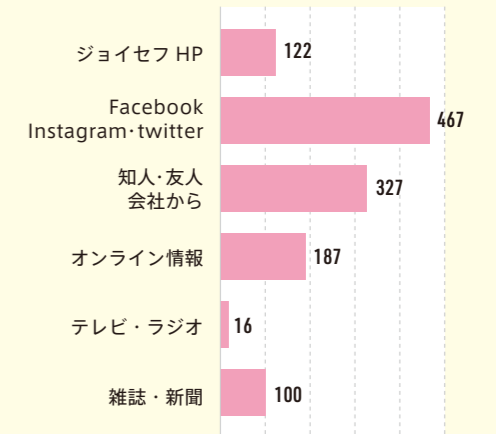
イベントに感じる魅力 (複数回答)



普段の寄付金額



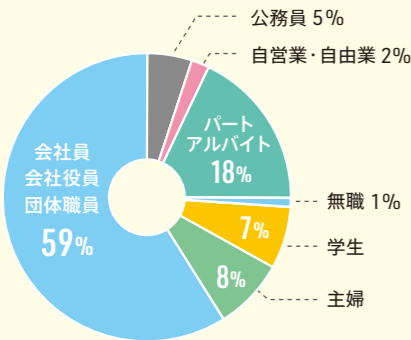
WRUNを知った媒体は?



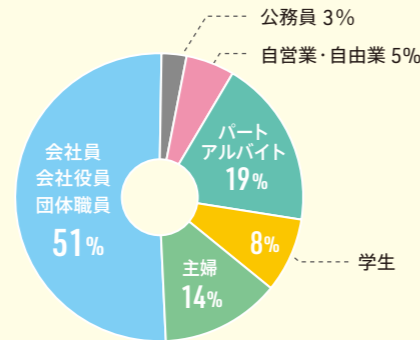
事後アンケート結果

参加者所属

東京有明ラン

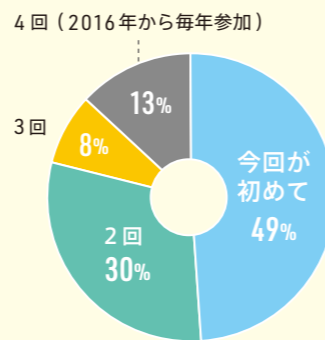


大阪 women's ラン



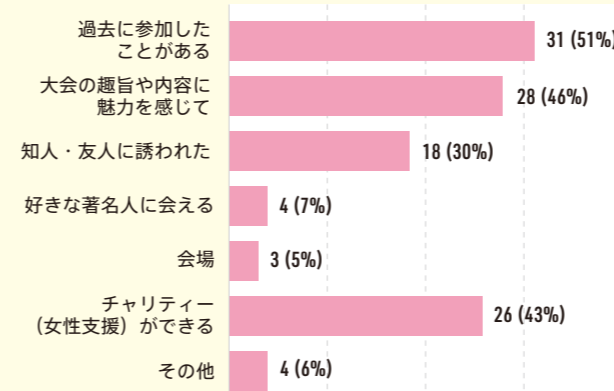
参加回数

東京有明ラン

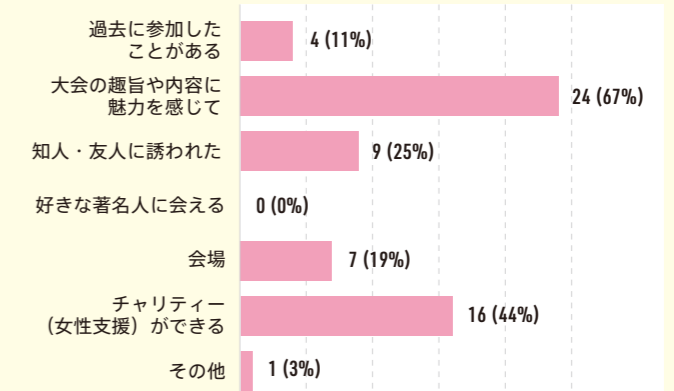


参加したきっかけ (複数回答)

東京有明ラン

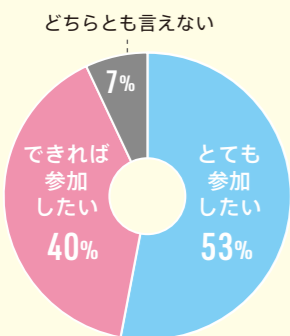


大阪 women's ラン

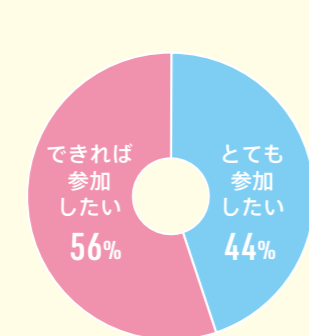


来年も参加したいですか?

東京有明ラン



大阪 women's ラン



参加者の声

東京有明ラン

女性が女性を守ることができ、個人でも外国へも支援できる方法があるのだと知り、とても良い機会でした。

走ることが好き！その好きなことで誰かのためになるって素敵だなぁと思う。沢山の人が広がれば良いなと思う。

世界には、出産の際に命を落とす女性がどれだけいるのか、知識があるだけで救える命があること。そのために私たちができることがあるということがわかり、今後の人生において大切なものを得た気がしました。

大阪 women's ラン

日本でも女性が妊娠出産で亡くなっている (30人/年) ことに初めて気づき、人事担当者として社員の妊娠時により一層温かい声をかけることを心掛けるようになりました。

女性がいつまでも笑顔で輝いている為に、勇気を出して一歩！イベントはチャリティーランで、少しでも役立てればと思う。私たちの行動が他の走らない方にも考えるきっかけになればと思う。

誰かのために走ると同じ地球で同じ時間で、自分以外の人も走っていると考えると、力が出ます。

マラソンが体にいいこと。女性へのチャリティーをもっとしていきたいと思えたこと。

日本でも女性の地位は発展途上ですが、世界にはもっと過酷な状況の人たちがいます。知ることがなければ、次の行動はできないので、チャリティーの言葉には反応するようになりました。

妊産婦の状況改善というテーマが自分の中の社会問題の優先順位の高まった。

マラソンは苦手だったのですが今回参加させてもらうにあたって練習をしたり、実際に本番走ってみて本当に気持ち良かったです。今後も積極的に参加したいと思います。

東京マラソンと同じ日だったが、チャリティーマラソンも、もっと報道して啓発して欲しいと思った。自分も宣伝していきたいと思った。

国際女性デーへの意識が高まりました。女性支援について考えさせられるようになった。

WHITE RIBBON RUN 2016～2019 支援内容

WHITE RIBBON RUN 2016



ネパール ネパール被災地で性暴力などの二次被害を減らすために

2015年4月のネパール地震により倒壊したバクタプル地域のユースセンターを建て直す建築費に充てられ現在建設中です。ユースセンターは、性に関する正しい知識を同世代に伝えていく役割を担うピア・エドゥケーターの活動拠点であると同時に、現地の若者たちが気軽に立ち寄れる場所でもあります。例えば学校に行くことができない若者たちも、ユースセンターに来て、必要な情報や知識を得ることが可能になります。



ザンビア ザンビアの女の子のエンパワメントのために

コッパーベルト州マサイティ郡とムポングウェ郡で、同世代の仲間たちに性に関する啓発活動を実施する60名のピア・エドゥケーターを対象に、さらなるスキルアップを目指した再研修を実施しました。10代の妊娠や望まない妊娠、性感染症を減らすための教育・啓発に加え、女の子のエンパワメントのために必要なセッションとワークショップを実施しました。



ガーナ ガーナの水道のない地域で安心して出産できるように

イースタン州コウ・イースト郡ヴォルタ川流域地区にある、水道が整備されていない診療所に水タンクを2台設置しました。水タンクの設置によって乾季でも水が底をつくことがなくなり、女性たちがいつでも安心してこの診療所で出産できるようになりました。

WHITE RIBBON RUN 2017



タンザニア タンザニアで思春期の女の子たちを守る

HIV/エイズの感染率が高く、エイズ孤児の多いタンザニアの農村で、同世代の若者に正しい保健知識を広める活動をするピア・エドゥケーター30名に対し再研修を行い、彼らがコミュニティや学校で実施する啓発活動や交通費に活用しました。



ネパール ネパールの女の子の安全を確保する

2015年に大地震が発生以降、ジェンダーに基づく暴力、人身売買が増えているため、若い女性が騙されずに自分たちを守るための知識やリテラシー力をつけるための支援活動が急務となりました。学校やユースセンターで、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルスをはじめとする正しい知識の普及をし、女の子たちが自分自身を守るための講座を実施するピア・エドゥケーターを20名育成しました。



ミャンマー ミャンマーで妊娠・出産する女性の命を守る

河川が多く病院への妊婦の搬送、出産の際に助産師や医師による立会いが難しいエヤワディ地域チャウンゴタウンシップで、産前・産後と育児中の女性をサポートする母子保健推進員(ジョイセフの研修を受けたボランティア)1,161名の再研修費の一部として活用しました。母子保健推進員のスキルアップをすることで、ひとりでも多くの妊産婦が専門技能者による産前・産後健診を受け、立会いのもとでの出産ができるようになりました。

WHITE RIBBON RUN 2018



ガーナ ガーナで適切な保健サービスを提供できるようにするために

ガーナイースタン州のコウ・イースト郡は複雑な地形をしている地域です。それが住民の移動を困難にし、妊産婦が健診や出産のために保健施設を利用しない原因となっています。大会からの寄付により、住民に最も近く、基礎的な医療器材を備えていない保健施設に、血圧計やヘモグロビン検査機、蘇生バッグを提供しました。



ネパール ネパールで若い女の子たちが自分自身を守るために

人身売買や女性差別が深刻なネパールでは、ラジオを通して若者のピア・エドゥケーターが同世代の若者たちに向け啓発教育を行いました。ピア・エドゥケーターたちに再研修を行うと同時に、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルスに関するラジオ・プログラムで呼びかけを6回行い、ネパールの多くの地域の若者たちに啓発を行いました。

ホワイトリボンラン 2016～2018年 の大会からの寄付金

2016年	4,627,500円
2017年	6,694,500円
2018年	3,750,960円
合計	15,072,960円

WHITE RIBBON RUN 2019

国際家族計画連盟 (IPPF) と連携し、国際的な支援が激減する中、望まない妊娠や安全でない人工妊娠中絶が増え、女性の健康を損ない、妊産婦の死亡が起こっている国を支援します。



ケニア

ジョイセフが活動を実施しているスラムで、家族計画サービスを提供します。スラムでは多くの住民が貧困に直面し、特に女性たちは生活のために性交渉を受け入れたり、性暴力の被害にあったりすることも少なくありません。十分な教育を受けていない人々の多くは、性感染症や意図しない妊娠から身を守る方法を知りません。ジョイセフは、こうした人々がセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて知識を得て、避妊具(薬)にアクセスできるよう、地域保健ボランティアが住民の啓発活動を行い、保健医療従事者がスラムに出かけて行き、家族計画サービスを提供するのを支援します。



ザンビア

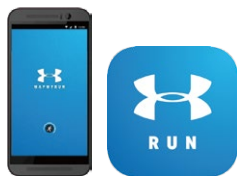
コッパーベルト州ルフワニャマ郡の若者ピア・エドゥケーターの女子を対象に、スポーツを通じたエンパワメントワークショップを実施します。球技やランニングなどで身体を動かし、楽しみながらリーダーシップやチームワークの重要性、そしてセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルスについての理解を深めます。自分の身体を知ること、自分の身体を自ら守る意識を高めることにより、10代の望まない妊娠や性感染症、性暴力などの予防啓発教育活動の強化を目指します。

エントリー費と寄付

エントリー費 (内半額が寄付)	9,775,200円
一般寄付 (全額寄付)	425,471円
合計	10,200,671円

支援先寄付内訳

ケニア	2,656,536円
ザンビア	2,656,535円
合計	5,313,071円



SNS 女性支援キャンペーン

52,000円寄付に。

2月1日(金)～3月31日(日)の間、無料スマートフォンアプリ「Map My Run」を使ってワークアウトをしている写真を SNS に共通の#(ハッシュタグ)を付けて投稿すると、1投稿につき100円がアンダーアーマー(株式会社ドーム)より寄付されるキャンペーンを実施し、多くの投稿が寄せられました。

期間中、「SNS女性支援キャンペーン」の投稿が1,325件。そのうち条件に合った投稿が520件となり、最終寄付は52,000円でした。

寄付金はすべてケニアの貧しい村キベラの女性支援に使われます。

貧困層が暮らすアフリカ最大のスラム街ケニアのキベラでは、女性たちは、貧困が原因で産前健診に行かず、安全で衛生的な施設で出産をすることができません。そのため多くは自宅分娩をしています。また、未婚のまま妊娠・出産し、シングルマザーとして子どもを育てる女性が多くいます。そこで、今回の支援では、女性たちに家族計画サービスや母子対象に妊婦健診や産後健診、乳児健診などの出張サービスをキベラで行います。



／ 皆さまから、たくさんの投稿が寄せられました! ／

